

第1回低品位炭からのクリーンメタン製造技術研究終了時評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成27年12月21日(月) 13:00~15:00

2. 場 所 経済産業省別館1階108共用会議室

3. 出席者

(検討会委員)[敬称略・五十音順、※は座長]

関根 泰	早稲田大学 先進理工学部 応用化学科 教授
※堤 敦司	東京大学 生産技術研究所 エネルギー工学連携研究センター特任教授
東嶋 和子	サイエンス・ジャーナリスト
村岡 元司	NTTデータ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティング本部 本部長 パートナー
森田 哲司	一般社団法人日本ガス協会 技術開発部長

(研究開発実施者)

朝倉 隆晃	大阪ガス株式会社 エンジニアリング部 プロセス技術チーム マネージャー
横山 晃太	大阪ガス株式会社 エンジニアリング部 プロセス技術チーム 課長

(事務局)

資源エネルギー庁資源・燃料部石炭課

課長	覚道 崇文
課長補佐(企画調整担当)	高木 悠一
課長補佐(技術担当)	榎本 宏
技術係長	藤原 大輔
技術係	青山 晴香

(評価推進課)

産業技術環境局技術評価室

課長補佐 村田 博顕

4. 配布資料

資料1	委員名簿
資料2	研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料 3	経済産業省における研究開発評価について
資料 4	評価方法（案）
資料 5	低品位炭からのクリーンメタン製造技術研究の概要
資料 6	評価用資料
資料 7	技術評価書の構成（案）
資料 8	評価コメント票
資料 9	質問票
参考資料 1	経済産業省技術評価指針
参考資料 2	経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

5. 議事概要

（１）座長選出

委員の互選によって、堤 敦司委員が本検討会の座長に選出された。

（２）評価検討会の公開について

事務局から、資料 2 により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配付資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

（３）評価の方法等について

事務局から、資料 3、4、7、8、9 により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

（４）研究開発プロジェクトの概要について

事務局及び実施者から、資料 5 により、低品位炭からのクリーンメタン製造技術研究の概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 国内外の類似技術の運用事例について質問があり、研究開発実施者から、従来のメタネーション技術はアメリカで運用されているが、高カロリー化技術には運用例がないと回答した。
- ・ 事業化の際の経済性について質問があり、研究開発実施者から、SNGの製造コストは近年のLNG価格とほぼ同程度であるが、事業化の面では、近年のLNG価格では難しいと回答した。
- ・ 国際特許の出願・登録状況について、データを提供してもらいたいとのコメントがあり、研究開発実施者から、後刻提出したいと回答した。
- ・ 産炭国への普及見通しについて質問があり、研究開発実施者から、産炭国の制度や状況は様々であり、またLNG価格も関係するため、こうした情勢を注視している段階と回答した。
- ・ パイロット事業の計画について質問があり、研究開発実施者から、近年LNG価格が低迷しているため、現段階ではパイロット実証開始の判断はできないと回答した。
- ・ 触媒の寿命について質問があり、研究開発実施者から、メタネーシ

ヨン触媒についてはこれまでの実績から２～３年以上を想定しており、高カロリー化触媒については試験実施時間である５００時間までは確認したと回答した。

- ・ＳＮＧにはメタンだけでなくエタンやプロパン等も含まれているが、運搬上のリスクはないのか質問があり、研究開発実施者から、特段のリスクはないと回答した。
- ・「プロセス設計」と「触媒の開発」の２つのテーマの重要度について質問があり、研究開発実施者から、新規性の観点からは触媒開発の重要性が高いが、その性能評価の一環としてプロセス設計の部分も重要であると回答した。

(５) 今後の予定について

評価コメント票の提出期限を平成２８年１月１２日とすることを確認した。

以上